

はじめに

SKY大学は、高齢者の生活と健康・生きがいを支援する京都SKYセンターにとって、その基盤を形成する中心的な取組であります。京都SKYセンターは、SKY大学を修了した人々が中心となって、サークルをつくり、SKY会員の輪を広げ、それぞれの生きがいをつくりあげることによって進展してきました。

これからの高齢社会では、高齢者の積極的な社会活動への参加、主体的な地域貢献がこれまで以上に求められます。そして、これらの活動をすることが、高齢者自身の生きがいとなり、喜びに結びつくものでなければなりません。

SKY大学は、この生きがいを支えるよう、その『あり方』や『カリキュラム』を常に念頭に置き、検証を行い、そして改善していくことが極めて大切になっています。

SKYセンターでは、平成15年度に、それまでの個人の教養・知識の習得を中心としたあり方を見直し、高齢者の社会活動参加を促進し、学習成果を地域に活かす新たなカリキュラムによる『新・京都SKY大学』をスタートさせ、今日に至っていますが、5年が経過したこともあり、今一度現時点において、SKY大学の生涯学習としての成果と、修了生の地域での活動状況を検証し、時代に適合したSKY大学のあり方を再点検したいとの思いから、このたび、修了生の現状についての調査研究事業を実施しました。これは、その調査研究結果の報告であります。

なお、本調査研究は、問題点の分析や課題抽出を行うため『新・京都SKY大学修了生地域活動推進調査研究委員会』を設置するとともに、京都府立大学公共政策学部築山教授、石田准教授の指導・協力をいただきました。

SKYセンターは、平成22年に創立20周年を迎えます。社会・経済状況は、設立時とは大きく変化し、きわめて厳しい状況にあります。新たな飛躍に向けた事業を推進していかねばなりません。そのためにも、この調査研究の成果を踏まえ、時代に即した高齢者の社会活動参加を支援する新しいシステムをつくり上げていく必要があります。

最後に、このような調査研究の機会を与えていただいた財団法人長寿社会開発センターをはじめ、お忙しいなか中心となってお尽力いただいた築山教授及び石田准教授、そして調査研究委員会の委員の方々、並びにこの調査のためアンケートにご協力いただいたSKY大学修了生の方々に、深く感謝を申し上げます。

平成21年3月

財団法人 京都SKYセンター